初めて蓄音器を聞いた時とすきなレコオド

宮本百合子

青空文庫

一、私が生れて始めて蓄音器と云うものを見聞いたのは、もう十四五年前、父が英国から土産に買って来たものでした。大きな銀色の朝顔型のラッパ、耳を澄ますと、スースー、スースーと云う針の音。小さい弟達と三人で、熱心にラッパを見つめ、今考えれば、さほど芸術的でもなかったらしい沢山の唄をききました。

二、パストオラル・シムフォニー。オールドリフレーン。フィフス・シムフォニー。概してピアノや絃楽、交響楽を好んできます。

〔一九二二年六月〕

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集　第十七巻」新日本出版社
1981（昭和56）年3月20日初版発行
1986（昭和61）年3月20日第4刷発行
初出：「新家庭」
1922（大正11）年6月号
※「1初めて蓄音器を聞いた時、2わたしのすきなレコオド」は、との問いへの答え。
※底本の「解題」（大森寿恵子）は、この作品名を「仮題」としています。
入力：柴田卓治
校正：磐余彦
2003年9月15日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

初めて蓄音器を聞いた時とすきなレコオド

宮本百合子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/